

伝染病・感染症 医療史事典

トピックス
1347
2020

凡 例

1. 本書の内容

本書は、伝染病・感染症に関する出来事を年月日順に掲載した記録事典である。

2. 収録対象

(1) 伝染病・感染症に関する政策・制度・法律、病気の流行と原理、医療技術・治療法の研究と発達、医療現場での事故・事件など伝染病・感染症に関する重要なトピックとなる出来事を幅広く収録した。

(2) 主な収録期間は1347年（貞和3年）から2020年（令和2年）までの674年間にわたり、収録項目は2,744件である。

3. 排 列

(1) 各項目を年月日順に排列した。

(2) 日が不明な場合は各月の終わりに、月日とも不明または確定できないものは「この年」として、おおよその年しか分からない場合は「この頃」として、各年の末尾に置いた。

4. 記載事項

各項目は、分野、内容を簡潔に表示した見出し、本文記事で構成した。

5. 分野別索引

(1) 本文に掲載した見出し項目を分野別にまとめた。

(2) 分野構成は、索引の先頭に「分野別索引目次」として示した。

(3) 各分野の中は年月日順に排列し、本文記事の所在は、本文見出しと年月日で示した。

6. 地域別索引

(1) 本文に掲載した見出し項目を地域別にまとめた。

(2) 地域構成は、索引の先頭に「地域名一覧」として示した。

(3) 地域の中は年月日順に排列し、本文記事の所在は、本文見出しと年

月日で示した。

7. 事項名索引

(1) 本文記事に現れる用語、テーマ、人名などを事項名とし、読みの五十音順に排列した。

(2) 各事項の中は年月日順に排列し、本文記事の所在は、本文見出しと年月日で示した。

8. 参考資料

本書の編集に際し、主に以下の資料を参考にした。

『医療の歴史』ステイーブ・パーカー著 千葉喜久枝訳 創元社 2016

『科学者人名事典』科学者人名事典編集委員会編 丸善 1997

『感染症』サリー・モーガン著 西川美樹訳 文溪堂 2004

『感染症と法の社会史』西迫大祐著 新曜社 2018

『感染爆発』マイク・デイヴィス著 柴田裕之、斉藤隆史訳 紀伊國屋書店 2006

『感染症ワールド』町田和彦著 早稲田大学出版部 2005

『GREAT BREAKTHROUGHS 医学大事典』ロバート・スネッデン著 高田龍平監訳 ニュートンプレス 2020

『ザ・ヒストリー医学大百科』ジル・デイビーズ著 松岡里枝子監訳 中村正医事監修 ニュートンプレス 2020

『人類医学年表』三木栄、阿知波五郎著 思文閣出版 1981

『図解知っておくべき感染症 33』今村顕史監修 西東社 2015

『世界医学年表』藤井尚治編著 科学新聞社出版局 1980

『世界史を変えたパンデミック』小長谷正明著 幻冬舎 2020

『中国医学の歴史 第2版』傅維康主編、吳鴻洲副主編 川井正久編訳 東洋学術出版社 2017

『日本近現代医学人名事典 1868-2011』泉孝英編 医学書院 2012

『ねずみ・しらみ・文明』H. ジンサー著 橋本雅一訳 みすず書房 1966

『ビジュアル医学全史』クリフォード・ピックオーバー著 板谷史、権信介訳 岩波書店 2020

『病気と健康の世界地図』（幻冬舎新書）Diarmuid O'Donovan[著] 千葉百子訳 丸善 2009

『Maruzen 科学年表』植村美佐子ほか編訳 丸善 1993

『予防に役立つ感染症の事典』北里研究所監修 PHP 研究所 2008

『朝日新聞縮刷版』朝日新聞社

WHO 公式 HP <https://www.who.int/>

14世紀

この頃〔予防〕ベスト医師、マスクを着用 ヨーロッパで黒死病の治療にあたったベスト医師は瘴気から身を守るため、香りの良いハーブを大量に詰めたくちばしが付いたマスクを着用していた。

1304年
(嘉元2年)

この年〔技術〕アンリ・ド・モンドヴィルが解剖学を教授 フランスの外科医・フランス王フィリップ4世侍医アンリ・ド・モンドヴィルがモンペリエで解剖学を教授した。アンリは傷の治療をする際に清潔を保つこと、膿を避けることなどを提唱し、1306年から1320年にかけて『手術』を著すなど、手術法の発展に大きく貢献した。

1308年
(徳治3年, 延慶1年)

この年〔病気〕元で飢疫流行 中国・元の紹興、慶元、台州で飢疫が発生し、2600人以上が死亡した。

1313年
(正和2年)

この年〔病気〕大都で疫病 冬、中国・元的首都大都で大疫が発生した。1313年から1362年にかけて、元では疫病の発生が11次に及んだ。

1315年
(正和4年)

この年〔病気〕イギリスで飢饉熱流行 イギリスで飢饉熱が流行した。

1334年
(元弘4年, 建武1年)

この年〔病気〕元で疫病流行 中国・元の杭州、鎮江などで水旱が発生。飢民が57万2000戸におよび、疫病も流行した。

1341年
(興国2年, 暦応4年)

この年〔病気〕滑寿、麻疹を記録 中国・元末明初の医家滑寿が、麻疹に関する記録を残した。

1346年
(興国7年, 正平1年, 貞和2年)

この年〔病気〕ペストが黒海に到達 中央アジアまたは中国で発生し、アジアで猛威を振るっていたペストが黒海に到達した。1347年、コンスタンティノープル、エジプト・マムルーク朝をはじめとするイスラム世界に伝播。

1347年
(正平2年, 貞和3年)

10月〔病気〕黒死病が大流行 アジアやイスラム世界で猛威を振るっていたペストがシチリア島のメッシーナに上陸した。その後、南ヨーロッパ各地に拡大。1348年にはアルプス以北に伝播し、ヨーロッパ全域で大流行した。同年、エジプトでも大流行。1351年に流行は沈静化した。一説にはヨーロッパの全人口の60%にあたる3500万人、全世界では8000万人が死亡したとされ、541年と双璧をなす大流行である。ヨーロッパではその後も1354年、1360年、1369年、1372年、1382年などにペストが流行した。ペスト患者の皮膚には黒ずんだ斑点や腫瘍が生じることから、当時ペストは黒死病と呼ばれ恐れられた。また黒死病に対処するため、道路の清掃や廃棄物の処理、給水の管理など、ローマ帝国衰亡後に廃れていた公衆衛生対策が各地で実施されるようになった。

1348年 (正平3年,貞和4年)

この年〔病気〕シヨールアック、腺ペストと肺ペストを区別 フランス・アヴィニオンで黒死病が流行。外科医ギー・ド・シヨールアックは患者の治療にあたりとともに症状を記録し、腺ペストと肺ペストの症状を区別した他、伝染性も認識した。

この年〔病気〕開京で飢疫発生 朝鮮・高麗の首都開京で飢疫が発生した。

この年〔病理〕腐敗した空気が黒死病の原因と提唱 パリ大学医学部が、黒死病の原因は腐敗した空気であるとの説を提唱。これを受け、空気の腐敗や悪臭を防止するため、香水や香料の使用が奨励された。

この年〔出版〕ボッカチオ、『デカメロン』を著す 1348年から53年頃にかけて、イタリアの作家ジョバンニ・ボッカチオが『デカメロン』を著した。黒死病を逃れて郊外の別荘に集まった10人の紳士・淑女がそれぞれ1日1話ずつ、10日間で計100話を物語る形式で、王侯から庶民まであらゆる階層の人物が登場。当時のイタリア社会の姿を克明に描くとともに、黒死病が蔓延するヴェネチアの惨状も描写されている。

1357年 (正平12年,延文2年)

この年〔出版〕ヤコビ、伝染病に関する書を著す イギリスのJ.ヤコビが、伝染病に関する書を著した。

1361年 (正平16年,延文6年,康安1年)

この年〔病気〕イギリスでペスト流行 この年から1391年にかけて、イギリスで数次にわたるペストが小流行した。

1365年 (正平20年,貞治4年)

この年〔病気〕高麗で疫病流行 朝鮮・高麗で疫病が流行した。1374年には首都開京で大疫

が発生。

1374年 (文中3年,応安7年)

この年〔制度〕ヴェネチアに保健検疫委員会設置 ヴェネチアで保健検疫委員会が設置された。ヴェネチアでは1347年以來の黒死病の流行により、人口の四分の三が死亡したとされる。

1377年 (天授3年,永和3年)

この年〔政策〕ラグーザで、海港検疫開始 アドリア海東岸に位置するラグーザ共和国(現クロアチア・ドゥブロヴニク)が黒死病の侵入を防ぐため、汚染地帯から来た船を一定期間待機させる条例を發布した。待機期間は1ヶ月、また陸路の場合は40日間。

1383年 (弘和3年,永徳3年)

この年〔政策〕マルセイユで、検疫開始 マルセイユで、黒死病の侵入を防ぐため、検疫が開始される。隔離期間は後に40日に延長された。

1388年 (元中5年,嘉慶2年)

この年〔法令〕英国議会、水路への汚物廃棄を禁止 イギリス議会が動物の糞、内臓、その他の汚物の水路への廃棄を禁止する法律を制定した。瘴気説に基づき、腐敗した空気が発生して体調不良や病気の原因となるのを防ぐための措置。

【政策】

アルキアトリ任命	BC3世紀(この頃)
カトリック教会、ハンセン病患者の隔離を命	
令	1179(この年)
聖ラザロ騎士団、ハンセン病治療	1253(この年)
ラグーザで、海港検疫開始	1377(この年)
マルセイユで、検疫開始	1383(この年)
ミラノで、検疫規定	1399(この年)
ヴェネチア、検疫を制度化	1403(この年)
ヴェネチアに検疫専門官	1485(この年)
梅毒患者に退去命令	1497(この年)
中国にキナ皮輸出	1801(この年)
ベルギーにて衛生国際会議が開催	1852(この年)
ボンベ、日本でコレラ防疫を実施	1857(この年)
除痘館の種痘を官許	1858(この年)
長崎養生所、種痘の官許を得る	1862.2.15
スエズ運河が開通	1869.11.17
種痘の普及方を示達	1870.4.24
清が海港検疫を開始	1873(この年)
食肉検査を義務化	1875(この年)
衛生事務年報、衛生統計の報告を命ず	1880.7月
肺・肝の寄生虫病の報告を依頼	1883.4.23
上下水道敷設促進を建議	1887.6.30
伝染病研究所への国庫補助を建議	1893.1月
伝染病研究所に国庫補助	1893.3月
第1回国際らい会議	1897.6月
万国結核予防会議開催	1899(この年)
鼠を買い上げ	1900.1.15
第11回万国衛生会議	1900(この年)
第1回日本連合医学会開催	1902.4.2
複十字、結核予防マークに決定	1902(この年)
野口英世に研究費2000ドル	1902(この年)
癩予防相談会開催	1905.11.6
万国結核会議開催	1911(この年)
ロンドンで国際医学会議開催	1913(この年)
市立結核療養所の設置命令	1915.7.20
結核療養所設置を命令	1917.4月
ムシ菌デー実施	1920.11.5
警視庁に結核相談所	1928(この年)
結核予防について答申	1934.2.27
らい病20年根絶計画決定	1936.2.15
結核対策要綱閣議決定	1942.8.21
結核予防対策を答申	1943.1.16
連合軍、殺虫剤でマラリア・コントロール	
	1943(この年)
日本の保健所網整備	1944.10月
公衆衛生対策に関する覚書発表	1945.9.22
GHQ、公娼廃止を命令	1946.1.21
日本脳炎、法定伝染病指定	1946.7.9
結核対策強化に関する覚書発令	1947.3.17
厚生省、ペニシリン使用方針決定	1949.2月
ストレプトマイシン国内生産確保	1949.9.22

ワクチン等の国家買い上げ	1949(この年)
性病予防週間開始まる	1949(この年)
WHO、痘瘡などを指定伝染病に	1950.5月
結核対策本部設置要綱	1950.9.27
日本でストレプトマイシン国内製造許可	1950.10.28
第13回汎アメリカ衛生会議	1950(この年)
中国で第1回全国衛生会議	1950(この年)
保健所の整備と結核病床新設	1951.2.11
日本のWHO加盟承認	1951.5.16
結核医療への公費拡大	1952.1.11
結核死亡半減記念式典	1952.5.28
ウイルス性肝炎命名	1953(この年)
ストマヒ等診療点数引き下げ	1954.7.1
結核対策強化要綱を発表	1954.9.4
世界マラリア根絶計画	1955(この年)
水道行政の取扱閣議決定	1957.1.18
小児マヒの法定伝染病指定要請	1957.11.6
「世界天然痘根絶計画」可決	1958(この年)
小児マヒ、法定伝染病に指定	1959.6月
生物学的製剤製造規定	1961.2.1
食品添加物の規格基準改定	1962.2.13
コレラ防疫対策実施要綱	1962.3.13
フッ化物歯面局所塗布実施要領	1966.5.2
世界天然痘根絶計画の強化対策発表	1967(この年)
第1回国際リケッチャ・リケッチャ病会議	1967(この年)
薬害防止対策	1967(この年)
DDTなど新規製造許可一部中止	1969.7.10
NASA、月試料研究所を設置	1969(この年)
WHO、世界マラリア根絶計画を断念	1969(この年)
米国、DDTの散布禁止	1972(この年)
感染症サーベイランス開始	1981.7.1
厚生省エイズ調査研究班発足	1983.6.12
薬害エイズで第1回会合	1983.6.13
血液輸入の全面停止を諮問	1983.7月
国際免疫学会議が開催	1983.8.21
厚生省、加熱製剤の治験指示	1984.1月
米国、非加熱製剤の製造などの禁止勧告	1985.5月
日本で加熱製剤承認	1985.6月
日本でHIV感染者発症予防・治療に関する研究班が発足	1988.5月
日本で血液製剤によるHIV感染者の救済制度開始	1989.1月
日本赤十字社の血液凝固製剤製造を承認	1989.5月
血友病の医療費を公費負担に	1989.7.24
医療廃棄物処理ガイドラインを策定	1989.11.6
遺伝子治療でガイドライン作成	1993.4.15
世界結核非常事態宣言	1993(この年)
日本で、国際エイズ会議開催	1994.8.7
薬害エイズ二次感染者も医療費無料へ	1996.3.26
BSE防止へイギリス産牛肉加工食品の輸入禁止	1996.3.27
O157を伝染病指定	1996.8.6

《世界》

ユーラシアでインフルエンザ流行	1775 (この年)
猩紅熱が世界的に大流行	1776 (この年)
インフルエンザが世界的流行	1781 (この年)
コレラ第1次世界大流行	1817 (この年)
コレラ第2次世界大流行	1826 (この年)
世界でコレラが流行	1829 (この年)
インフルエンザが世界的に流行	1830 (この年)
ラジェスセシアで結核治療	1830 (この年)
欧州などでインフルエンザ流行	1836 (この年)
コレラ第3次世界大流行	1840 (この年)
隔離地で麻疹が流行	1846 (この年)
世界でインフルエンザが流行	1847 (この年)
東西両半球でインフルエンザ流行	1857 (この年)
コレラ第4次世界大流行	1863 (この年)
東西両半球でインフルエンザ流行	1873 (この年)
コレラ第5次世界大流行	1881 (この年)
インフルエンザ世界的大流行	1889 (この年)
コレラ第6次世界大流行	1899 (この年)
万国結核予防会議開催	1899 (この年)
複十字、結核予防マークに決定	1902 (この年)
スペイン風邪流行	1918 (この年)
天然痘ワクチン開発	1918 (この年)
IUAT設立	1920 (この年)
ライヒマン、LNHO理事長就任	1921 (この年)
「ジュネーブ議定書」署名	1925.6.17
国際連盟極東伝染病学局設置	1925 (この年)
ペニシリン普及	1943 (この年)
インフルエンザ、世界的に流行	1946 (この年)
WHO、痘瘡などを指定伝染病に	1950.5月
世界の死亡率減少	1950 (この年)
抗生物質開発の黄金時代	1950 (この頃)
薬剤耐性菌の出現	1950 (この頃)
ウイルス性肝炎命名	1953 (この年)
世界マラリア根絶計画	1955 (この年)
世界でアジアかぜ大流行	1957.4月頃
「世界天然痘根絶計画」可決	1958 (この年)
コレラの第7次世界大流行が始まる	1961 (この年)
世界天然痘根絶計画の強化対策発表	1967 (この年)
香港かぜ、世界的に大流行	1968 (この年)
WHO、世界マラリア根絶計画を断念	1969 (この年)
青少年・若者の虫歯半減	1970 (この頃)
天然痘、1979年中に根絶の見込	1973 (この年)
「拡大予防接種計画」開始	1974 (この年)
WHO、天然痘根絶宣言	1979.10.26
エイズウイルスの名称統一	1986.7月
世界のエイズ感染者、1000万人に	1990 (この年)
20世紀末のエイズ感染者数予測を公表	1991 (この年)

世界のエイズ感染者、1500万人突破	1993 (この年)
世界結核非常事態宣言	1993 (この年)
新型肺炎SARS発生	2002.11月
WHO、SARSで警告	2003.3.12
SARSは新種ウイルス	2003.4.8
エイズ減少に向かう	2005 (この年)
世界の累積エイズ死亡者3000万人に	2006.12月
鳥インフルエンザ、世界中で発生	2006 (この年)
世界マラリア・デー制定	2007.5月
民間航空機が大陸間に病気を伝播	2007 (この年)
超多剤耐性結核の感染拡大	2008.2.26
新型インフルエンザ、世界的に流行	2009.4.24
67ヶ国で狂犬病発症なし	2009 (この年)
マラリアの新ガイドライン発表	2010.12.10
WHOがHIVの新ガイドライン発表	2011.1.28
ポリオ撲滅新6カ年計画	2013.4.25
世界のベスト患者783人	2013 (この年)
B型肝炎治療ガイドライン発表	2015.3.12
SAGE推奨の初のマラリアワクチンのパイロットプロジェクトを実施	2015.10.23
WHO、ジカ熱で「緊急事態」宣言	2016.2.1
WHO、「緊急事態」宣言を見送り	2020.1.23
WHO、新型コロナウイルスで「緊急事態」宣言発表	2020.1.30
新型コロナウイルス、世界の感染者1000万人超、死者50万人超	2020.6.29
新型コロナウイルス感染者、世界で2000万人超	2020.8.12
新型コロナウイルス死者、世界で80万人超	2020.8.24
新型コロナウイルス死者、世界で100万人超	2020.9.29
2016年から19年にかけて世界の麻疹死亡者数が50%上昇	2020.11.12

《アジア》

アジアでコレラ流行	1963.4.24
アジアで鳥インフルエンザ発生	2004 (この年)
アジアで、鳥インフルエンザ流行	2008 (この年)

《東アジア》

東アジアでコレラ流行	1862 (この年)
東アジアでチフス流行	1881 (この年)
東アジアでコレラ流行	1885 (この年)
東アジアでコレラ流行	1890 (この年)
東アジアでコレラ流行	1891 (この年)
東アジアでコレラ大流行	1895 (この年)

【あ】

アイザックス,アリック

長野泰一ら、ウイルス抑制因子発見 1954(この年)
 アイザックスら、インターフェロン発見 1957(この年)
 アイザックスが没する 1967.1.26

アイスマン

アイスマン、ピロリ菌に感染 BC3300(この頃)

アイソレーション・チップ

iChip開発 2015(この年)

airoタイプイン

マクガイア、エリスロマイシン発見 1952(この年)

アウエンブルッガー,レオポルト

デ・ラ・シャサーニユ、焼却滅菌で結核を予防 1770(この年)

アウレリアヌス,カエリウス

肺結核を記録 BC63(この年)

アエティウス(アミダの)

アエティウス、『テトラピプロス』を著す 6世紀(この頃)

アオカビ

フレミング、ペニシリンを発見 1928.9.28

青山 胤通

青山胤通ら、ペスト菌を発見 1894.5月

明石 博高

祇園に療病館設立 1870.7月

赤チンキ

ヤング、マーキェロクロムを創製 1919(この年)

赤疱瘡

日本で赤疱瘡流行 1077(この年)
 日本で赤疱瘡(麻疹)流行 1113(この年)

秋月藩

緒方春朔、鼻乾苗法を考案 1789(この年)

亜急性細菌性心内膜炎

オスラー、亜急性細菌性心内膜炎のオスラー結節に関する論文を公表 1908(この年)
 亜急性細菌性心内膜炎の研究を公表 1910.12.24

審良 静男

審良静男、日本学士院恩賜賞受賞 2007.6.11
 審良静男、文化功勞者に選出 2009(この年)

アクチノバチルス

放線状桿菌アクチノバチルスを発見 1902(この年)

悪病流行医員派出ノ節施治患者等届出方

「悪病流行医員派出ノ節施治患者等届出方」を達す 1876.2.5

悪病流行ノ節貧困ノ者処分概則

「悪病流行ノ節貧困ノ者処分概則」公布 1875.4.8

「流行病アル節貧民救療費支弁方」を達す 1881.4.19

浅川腸チフス診断液

浅川腸チフス診断液を創製 1900(この年)

浅川 範彦

浅川腸チフス診断液を創製 1900(この年)

アジアかぜ

世界でアジアかぜ大流行 1957.4月頃
 インフルエンザ大流行 1957.5.11
 イギリスでインフルエンザ流行 1961.1.28
 米国でインフルエンザ流行 1963.2.3

アジア・タイガー蚊

仏領レユニオンなどで、蚊媒介の感染症大発生 2006.3.3

アシネトバクター感染症

耐性菌感染症を五類感染症に追加 2011.1.14

アシネトバクター・パウマニ

多剤耐性菌院内感染 2009.1.23

アシャル,エミール・シャルル

アシャルら、バラチフス熱を記載 1896(この年)

アスクレピオス

ギリシャで、温泉施設建設 BC8世紀(この頃)

アスコリ,A.

アスコリ、炭疽の加熱沈降反応発表 1911(この年)

アストリェク,ジャン

アストリェク、『性病学』を著す 1736(この年)

アスピリン

コルベ、コルベ反応を発見 1859(この年)
 ドレッサー、アスピリンを合成 1893(この年)
 ホフマン、純粋なアスピリンを合成 1897.8月
 ドレッサー、アスピリン使用開始 1898(この年)

アセチルサリチル酸

ドレッサー、アスピリンを合成 1893(この年)
 ホフマン、純粋なアスピリンを合成 1897.8月

安達 謙蔵

糞予防協会を改称 1952.6.13

アッシュバーン,P.M.

アッシュバーンら、デング熱の病原体はウイルスと発表 1907(この年)

アッピア水道

アッピア水道建設 BC312(この年)

アトキシル

エールヒラ、トリパンレッド発見 1904(この年)

アトキンス,ジョン

アトキンス、アフリカ睡眠病を報告 1734(この年)

アナフィラキシー・ショツク

リシュガバリ大学教授に 1887(この年)

アニリン

エールヒレ、細菌の染色法を發明 1878(この年)
 スペインで有毒食用油による中毒 1981.9.9

伝染病・感染症 医療史事典

—トピックス 1347-2020

2021年1月25日 第1刷発行

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／光写真印刷株式会社

不許複製・禁無断転載

(中性紙目・三菱書籍用紙イエロー使用)

<落丁・乱丁本はお取り替えいたします>

ISBN978-4-8169-2863-5

Printed in Japan, 2021

本書はデジタルデータでご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。